

千葉県私国立中入試概況

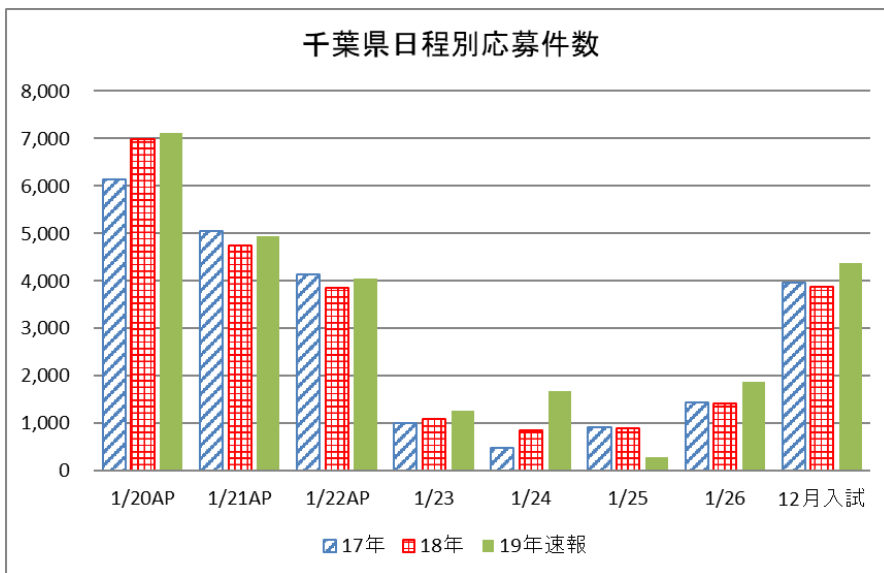
1. 概況 応募総数、実受験者数は増加が続き、ペースも上がっている

千葉県の私立中学入試は12月1日開始の推薦(第一志望・専願)入試と、1月20日開始の一般入試の2本立てです。今年の県内公立小6年生は約53,200名で、昨年より1,500名あまり増加しています。県内の公立中高一貫校を含む中学入試の応募総数は、2月22日現在約30,500件でした。一部に未公表の学校があり、最終的にはもう少し上乗せされます。昨年度の最終が約28,700件でしたので、応募者の増加が続いていますが、増加のペースが上がっています。一昨年

あたりから縮小傾向だった中学受験が拡大に転じた上に、県内の小6児童数が増えていることが、このような結果につながっています。2月22日現在の実際の受験者数は約26,800名で昨年度最終より約1,800名増加、合格者数は約1万名です。合格者数は、上位コース入試での入り易いコーススライド合格や、特待入試での一般合格は含んでいない学校がありますから、「入学できる」という意味ではもっと多くなりますが、同じ基準で見た昨年度の合格者数は約9,400名でしたから平均の倍率は上がって、全体的には難化傾向です。ただ、全校が難化したわけではなく、応募者が減った学校も見られます。

上のグラフは各校の入試の応募者数を日程別に合計して一昨年、昨年と比較したもので、今年は速報値です。12月の入試は、県立千葉・東葛飾の1次と私立の推薦・第一志望入試、12月実施の帰国生入試の合計、APとあるのは午前入試と午後入試の合計です。

12月入試の応募者数は、一昨年は東邦大東邦の推薦新設の影響を受けて増加しました。昨年は一昨年並みでしたが、昭和学院秀英や八千代松陰、帰国入試も新設した東邦大東邦などが増加の中心です。1月の入試では、1月20日が応募総数の最大で、21日、22日と



少なくなっていく。23日からは大きく減りますので、20日～22日が県内中学受験の中心になります。21日は東邦大東邦や国府台女子学院の増加がけん引役で、合計も昨年より200件近く増えていて、20日と22日も小幅ですが昨年より増えています。24日は昨年より800名以上増えていますが、これは麗澤の日程移動が主な要因で、25日の激減も同じ理由です。26日の増加は、市立稲毛が昨年の27日から移動したためで、昨年はグラフに登場していませんでした。県内では新設校などありませんから、日程移動を別とすると、全体的に応募者が少しずつ増えている状況で、中学受験生の増加を示しています。

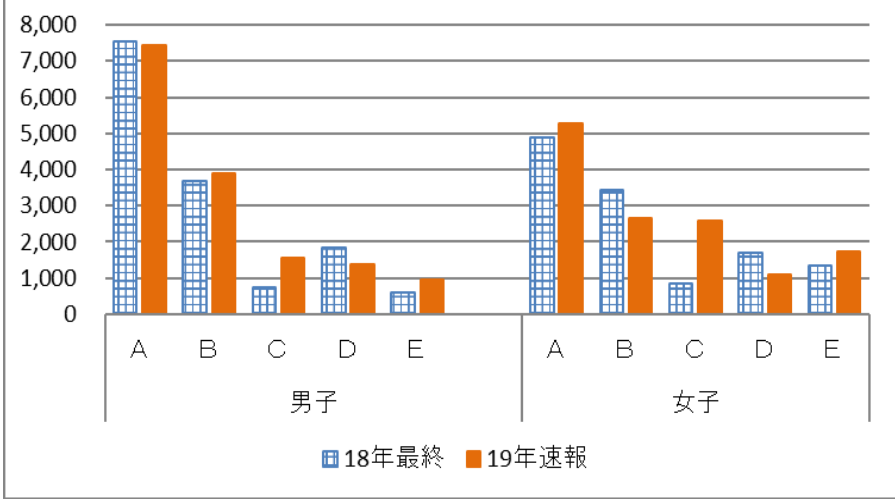
次に、難易度による志望校選択の傾向を見てみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ

れ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今年度用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。

千葉県の特徴は男女とも難関校のAグループが最多な点で、東京23区や多摩地区、神奈川県や埼玉県とは異なります。昨年の男子はDグループがCグループより多く、C～Eグループの間で真ん中が出張った形でしたが、今年はB、C、D…と入り易くなるほど応募者が減少、C～Eグループでは減少幅が小さくなるスキューのジャンプ台のようなグラフです。この形の変化は、Dグループ校の一部の難度が変わって、難度だけで考えていない受験生の動きが変わった面もありますが、同時に県内の学校を考える男子受験生は、残念ながらC～Eグループ校はあまり眼中にないこととなります。女子もAグループが最多なのは男子と同じですが、Aグループ集中度合いは、男子よりは低く、Cグループ校の希望者も多く、今年はBグループよりやや多くなっています。しかし、今年はDグループの応募

が最少でした。昨年はCグループが最少でしたから、受験生の学校選択志向が、A・Bグループを中心に考える受験生と、D・Eグループを中心に考えるグループに二分化していました。今年はDグループが最少ですから、A～CとEに二分化しています。学校の難度が変わって志望先のグループが変化しているケースはありますが、上位校志向の受験生がCグループ校に注目するようになってきたようです。また、男女ともEグループが増加していますが、難度が高なくても地元の公立中より、面倒見のよい私立、と考える受験生が増えてきたのでしょう。中高一貫教育のすそ野が広がっています。以下、各地域別に入試状況を見ていき

難易度別応募者数 千葉県



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で千葉県私立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。芝浦工大柏はGS応募者を区分できないためBとしています。

- A…市川・渋谷幕張・昭和学院秀英・東邦大東邦
- B…芝浦工大柏・専修大松戸・千葉大附属・麗澤(AE)
- C…国府台女子・聖徳大附属女子(S探究特待)・千葉日大第一
・成田高校附属・麗澤(EE)
- D…聖徳大附属女子(S探究)・昭和学院(アドバンスチャレンジ)
・東海大浦安・二松学舎大附柏(特選・グローバル)・日出学園
・八千代松陰
- E…和洋国府台・暁星国際・志学館・秀明八千代・翔凛・昭和学院(一般)
・聖徳大附属女子(LA)・西武台千葉・千葉明德・二松学舎大附柏(選抜)

ます。県立千葉、東葛飾と市立稲毛は公立一貫校のページをご覧ください。

2. 市川市～千葉市方面

まず女子校から。国府台女子学院は2016・17年度入試の応募者増加傾向から、昨年度はやや減少しましたが、今年度は12月の推薦、1月の1回とも大幅に増加、2月の2回も増えています。特に1回は合格者数を絞った選抜でした。昨年度は応募者が減少したのに各回次とも合格最低点が上がって、受験者が絞られた入試でしたが、今年度は推薦・1回が昨年度並み、2回はやや下がっています。2回は得点分布の影響でしょう。

各回次とも難度に変化は見られず、実質倍率が上がった分、ボーダーライン付近が厳しくなった入試だったようです。

和洋国府台は2017年度から中学と高校の校舎を統合し、中高一貫教育の深度化を図っています。今年度は、1月24日の2回の理科または社会選択3科を4科に統一しています。12月の推薦入試は例年並みの応募者数で、難度にも特に変化は見られませんでした。一般入試は各回次とも応募者が増加しています。昨年度は前年度とあまり変わらない応募者数でしたから人気が上がりました。実際の受験者数の増加に対応して合格者も増やしていますので、難度面では各回次ともあまり変化はなかったようです。

続いて男女校です。トップ校の**渋谷幕張**は、昨年度は1月20日の帰国と22日の1次の応募者数が増加、2月の2次は概ね前年度並みでしたが、今年度は1次の女子の応募者がやや増加、2次は男子が少し減って、それ以外は昨年度並みの応募者数でした。各回次の合格最低点も昨年度並みで、今年度も高水準の厳しい入試でした。

東邦大東邦は2017年度から帰国生以外の高校募集を停止して原則完全一貫校になっています。中学では2017年度に新設した12月の推薦入試が大人気で、今年度はさらに同時並行で帰国入試も新設しています。推薦入試は今回も男子の実質倍率が16.5倍、女子は24.3倍の大激戦でした。合格最低点は昨年並みですが、とにかく高倍率の厳しい入試です。帰国入試は61名が応募、35名が合格していて、推薦入試よりは少し入り易かったようです。1月の前期は男女とも応募者・受験者が増加、合格者は逆に絞られて実質倍率は上がりました。合格最低点は昨年度並みですから、ボーダーライン付近が激戦になったようです。2月の後期は、女子は応募者が増えましたが、男子は前期の厳しさに懲りたのか、再挑戦の受験生が減ったようで、応募者減となっています。合格者数は男女とも昨年度より増えています。合格最低点は昨年度並みで、受験生の学力水準が少し上がっているようです。

例年幕張メッセで大規模な入試を行うことで有名な**市川**は、12月の帰国入試と1月20日の1回の英語選択で、英語の出題を変更しましたが、通常の1・2回の4科入試は特に変更はありません。12月の帰国入試は男女とも昨年度並みの応募者数・合格者数ですが、

英語の出題が変わった分、求められる学力が質的に少し変わった結果だったようです。1回は4科・英語選択・帰国も含めて男子は応募者が少し減り、女子は昨年度並み、2回は男女とも昨年並みでした。実際の受験者数も同傾向で、1回の合格者は昨年度より少し増えていますが、合格最低点は1・2回ともやや上がっていて、受験生の学力層が少し高くなったようです。

昭和学院秀英は、12月に1回として第一志望入試を行い、1月と2月に2・3回として一般入試を行っていて、昨年度からは1月20日午後算数重視の特別入試も行うようになっていきます。2月2日の3回は男女とも昨年度並みの応募者数でしたが、他の回次は応募者が増加して人気が上がっています。1回第一志望入試は男子の実質倍率が29.7倍、女子は17.1倍と、今年も大激戦でした。合格最低点も少し上がっています。特別入試も合格最低点はやや上がり、受験生が増えた分難化しています。2回は受験者数が増えています。女子の合格者が増えており、合格最低点も昨年並み、3回は男女とも昨年度並みの受験者数でしたが、合格者は絞られ、特に女子は実質倍率49倍でした。合格最低点は昨年並みです。

千葉日大第一は、昨年度12月の第一志望入試、1月21日の1期とも応募者が増加、厳しい入試となり、1期と、応募者数が前年度並みだった26日の2期は合格最低点が大きく上がって難化しました。今年度はその反動もあって、第一志望入試の女子が昨年度並みの応募者数でしたが、男子と1・2期は男女とも応募者が減りました。難度で敬遠されたようです。1・2期は実質倍率、合格最低点とも下がっていて、少し入り易くなったようです。昨年度が難化でしたから、難度が元に戻ったと考えてよいでしょう。第一志望入試の合格最低点はあまり変わっておらず、難度に変化はなかったようです。**東海大浦安**も付属カラーが強い学校です。昨年度は12月の推薦の応募者がやや減ったものの、1月20日のA、24日のBとも応募者が増加、特に男子の増加が目立っていました。今年度も男子の人気は続いていて推薦、A、Bとも増加、女子は各回次とも昨年度並みでした。実際の受験者数も同傾向で、合格者数は男子が増えて女子は減っています。合格最低点はあまり変わっていません。

昭和学院は21世紀型学力を志向した「マイプレゼンテーション入試」を行っていますが、今年度はこの

入試で英語のプレゼンテーションも新設しました。各回次合計の応募者数は、一昨年が大きく増加、昨年はやや減っていましたが、今年は再び少し増えています。1月20日の一般入試は男女とも昨年並みの応募者数でしたが、23日の適性検査型はやや増加、25日のアドバンストチャレンジ入試も4科の男子の増加が目立ちました。合格最低点は適性検査型が少し上がっているほか、推薦の男子4科が下がっていますが、得点分布の影響が大きいようで、難度面では各回次ともあまり大きくは変化していないようです。

日出学園は昨年度、口頭試問型のサンライズ入試を新設しました。今年度は推薦、一般I・II期とも2016・17年度に続いて応募者が増加、サンライズ入試も増えて人気が上がっています。実際の受験者数も増えていて、合格者も増えていますが、推薦が昨年並みの合格最低点だったものの、一般I・II期は上昇しています。得点しやすい出題だった面はあるかもしれませんが、受験生の学力層が今までよりも上がって、難化した面の方が強いようです。サンライズ入試も高倍率になっています。**千葉明德**も小規模な入試の学校でしたが、2016年度に適性検査型入試を開始してから応募者が増えて、昨年度には小規模を脱しています。今年度は昨年度新設したループリック評価型入試を12月の第一志望入試に移行し、1月24日の一般2回を20日の一般1回に集約、24日は特待入試のみとしましたが、入試日程を減らしたにもかかわらず応募者は増加しています。地域での評価が上がっているからでしょう。合格最低点は本稿執筆時点でまだ公表されていませんが、特待入試は合格者を絞り込んでいて、少し難化したようです。他の回次は受験者数の増加に対応して合格者も増やしていますから、難度は昨年度並みでしょう。

国立の千葉大附属は、2017年度は応募者が増加、昨年度は減少と隔年的な変化を見せていて、今年度は順番通り増加しています。2017年度は女子の増加が目立ちましたが、今年度は男子の増加幅が女子より大きくなっています。実際の受験者数も増えていて、例年通り補欠を出していますが、受験生が増えても正規合格者数は昨年とあまり変わっていないので、少し難化したようです。

☆

3. 八千代市～成田市方面

成田高附属は、昨年度から12月に第一志望入試を新設、後期入試を廃止しています。第一志望入試は、男女とも昨年度並みの応募者数で、合格最低点もあまり変わりませんでした。一般は、昨年度は男子の応募者の増加が目立ちましたが、今年度は男子が昨年度並み、女子は増えていて、人気は女子に移っています。合格最低点はこちらも昨年度並みで、難度は変わっていないようです。**八千代松陰**は、2017年度は各回次合計の応募者数が大幅に減っていましたが、昨年度はやや増加、今年度はかなり増えていて、人気は回復してきました。昨年度、今年度とも、12月の推薦入試の増加が目立っていて、志望順位が高い受験生が増えています。合格最低点は変わっていませんから、特に難化したわけではありませんが、ボーダーライン付近が厳しい入試になったのでしょうか。1月20日からの一般入試は、各回次とも応募者が増えていますが、小幅にとどまっていて、実際の受験者数、合格者数もあまり変わっていません。こちらも合格最低点は昨年度並みですから、難度も変化は見られません。推薦入試不合格者の中には、同校に再挑戦せずに、他校に回った受験生も多かったようです。**秀明八千代**は小規模な入試の学校で、昨年度は各回次合計の応募者数が前年度並みでしたが、今年度はやや減っています。もともと不合格者があまり多くないため、各回次とも難度はあまり変わらなかったようです。

4. 木更津市～君津市方面

この地域の各校は寮を設置していて、他の学校とは性質が異なっています。**翔凜**は算数と英語面接の特別入試を新設しましたが、学校トータルの応募者数は昨年とあまり変わらず、小規模な入試でした。**志学館**は曜日の関係で一部の入試日程を変更していますが、応募者が昨年より増えたものの、寮制の性格上やはり小規模な入試でした。**暁星国際**も、一部の入試の日程を変更していますが、本稿執筆時点で入試結果未公表でした。

5. 常磐・北総・TX線方面

女子校の**聖徳大附属女子**は、S選抜・選抜・進学クラスの3コース制を、S探究・LAクラスの2コース制に改編しました。12月の第一志望入試、1月20日午

前の1回、午後の適性検査型は昨年並みの応募者数でしたが、22日午前の2回、24日の特待、2月の3回は応募者が少し減っていて、24日午後に新設した英語入試や音楽表現入試を含めても各回次合計では昨年度を少し下回る応募者数です。実際の受験者数や合格者数も少し減っています。コースを改編していますので、合格最低点の単純比較はできませんが、特待入試の認定基準は昨年度並みで、S探究は昨年度までのS選抜、LAIは進学とあまり変わらない難度だったようです。

続いて男女校です。**芝浦工大柏**はグローバルサイエンスクラスと一般クラスの2コース制です。昨年度は1月23日の1回、27日の2回の応募者がやや増加、2月4日の3回は大きく増えています。今年も人気は継続、3回の男子が若干減ったものの、女子と1・2回は男女とも応募者が少し増えています。しかし、実際の受験者数は1回が少し増えたものの、2・3回は昨年よりも減っていて、1回の不合格者の再挑戦が減ったと考えられます。実際、合格最低点を見ると1・2回ともグローバルサイエンスは昨年並みですが、一般クラスは上がって、難化しています。こうしたことから、早めに再挑戦を諦めてしまった受験生も出たのでしょう。3回は男女とも合格者が増えていて、合格最低点も少し下がりました。少し入り易くなったようです。最後まであきらめないことが大切、といった結果でした。**専修大松戸**は、女子が2017年度に目立って応募者が増加、昨年度は反動で減少、男子は昨年度に増加して、男女で別の動きになっていましたが、今年度は1月20日の1回が男女とも増加、26日の2回と2月の3回は男子が昨年度並み、女子は少し減った応募者数でした。実際の受験者数は各回次合計でやや増えていて、1・2回は昨年度並みの合格最低点でしたが、3回は合格者を絞り込み、実質倍率が上がって合格最低点も高くなりました。1・2回は特に難度は変わっていませんが、3回は難化しています。

麗澤はAE、EEの2コース制です。昨年度は1月22日の入試を廃止し、入試の回数を4回から3回に減らしました。今年度は1月27日午後に入試を新設して再び4回実施に戻りましたが、新設の入試は2月の最終回で実施していた表現力記述型の入試で、2月の入

試も含めてEEコースのみの募集だったものを、AE・EE2コース募集としました。表現力記述型の入試で上位コース合格が出せ(受験生の資質を見極めることができる)自信が出てきたのでしょうか。1月20日の1回は昨年度並みの応募者数ですが、24日の2回は男女とも少し増えていて、AEコースの1・2回とEEコースの1回は昨年度並みの合格最低点でしたが、EEコース2回は少し上がっています。表現力記述型の4回(昨年度は3回)は、3回新設の影響で応募者が減りましたが、新設の3回に多くの応募者があって、合計すると昨年度の2倍以上です。こうした入試形式は女子受験生が得意なようで、どちらも7割が女子の応募者でした。EEコースの合格最低点は昨年並みでしたが、新たに合格判定されたAEコースは、3回が10名、4回は1名しか合格しておらず、高難度の入試になりました。

二松学舎大附属柏はグローバル・特選・選抜の3コース制で、入試に目立った変更はありません。2017、18年度と各回次合計の応募者数が増加、特に昨年度は大きく増えましたが、今年度はやや減っていて、1月24日の4回が減少の中心です。他の回次は小幅な増減で概ね昨年度並みの応募者数でした。実際の受験者数も少し減っていますが、合格者数は昨年並みでした。合格最低点は20日午前の1回、20日午後の2回、22日の3回は昨年並みで、4回は受験者数の減少から少し下がっています。やや入り易くなったかもしれませんが。しかし2月5日の5回は上がっていて、少し難化したようです。なお、全体状況とは別に、グローバルコースは少数でも力のある生徒たちで編成することから、今年も高い得点率が求められました。

西武台千葉は昨年度まで特選と進学の2コース制でしたが、今年度からコースを1本化しました。昨年度までは一般1回が特選と進学で別日程だったため、両コースを併願する受験生がいましたが、コース一本化でこうしたケースもなくなったことで、応募総数は減少するケースが多いのですが、同校もやはり同様で、小規模な入試でした。難度も昨年度までの進学とあまり変わっていないようです。